

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月16日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600164
法人名	有限会社 花
事業所名	ふれあいホーム花
所在地	鹿児島県阿久根市西目6283番地2 (電話) 0996-72-7171
自己評価作成日	平成28年10月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年11月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊で静かな環境にあり、海、山が近く、季節の海の幸、山の幸に恵まれ美味しい食材が豊富である。季節の魚介類を地元の魚屋より週3回購入し、週1回は必ず新鮮な刺身を提供している。季節に合わせて、ホーム内で春はウニ井祭り、秋は芋煮会などホームの畑で取れた里芋等新鮮な野菜を使用して食事を提供している。地域の住民との交流などもあり、地区の盆踊りや運動会への参加、敬老会など地区の方々の踊りの慰問などもあり、地域住民が交流を自主的に参加して頂き、ありがたいかぎりである。医療面では、看護師2人、准看護師1人勤務し利用者の健康管理を実施し、主治医の指示の基、ホーム内で注射や在宅酸素の管理を行っている。スタッフの勤務態勢も、スタッフ一人ひとり細かく勤務希望を聞き、勤務表を作成している。何か問題が生じたときは、安心して仕事が交代できるような体制作りをしている。スタッフ自身が、利用者にとって環境の一部として認識し、利用者に気配りができるように取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・理念「優しさ」「温もり」「楽しみ」「ふれあい」「美味しさ」を柱に職員は入居者が地域の中で、日々その人らしく暮らしていけるよう利用者の一人ひとりのライフスタイルを把握し支援している。
- ・地域密着型をめざし、施設内に多目的スペースが設けられ、地域住民の交流の場として、ヨガ教室や踊りボランティアの慰問、災害時の避難場所になっている。
- ・自治会に加入し、地域の盆踊を一緒に踊ったり、運動会の宝探しに参加する等、地域住民とのふれあいがもたれている。認知症養成講座の開催等、地域貢献も行っている。
- ・身体拘束をしないケアの実践について、マニュアルをもとに全職員の勉強会を行い、言葉の拘束や接遇に関して学んでいる。
- ・火災訓練は年2回実施し、1回は消防署立ち合いのもと夜間想定で行っている。緊急通報装置や消火器の使い方・点検・誘導確認等を実施。町内会の協力があり地域連絡網の体制が整っている。地震時の訓練も実施している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時やホーム内の勉強会で、理念の唱和や振り返りを実施し、日々の援助に活かすことができるように取り組んでいる。	地域密着型を踏まえた、5つの理念があり、パンフレットや玄関・フロアに掲示している。申し送り時に、読みあげ確認している。勉強会では管理者・職員は理念の取り組みや行動規範を振り返り実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の盆踊りや運動会など、毎年声をかけてもらい参加している。利用者も踊りに参加し、楽しみやふれあいの場となっている。運動会の後の食事には、地区の方が捕ってきた、新鮮な魚の刺身がふるまわれる。	自治会に入り回覧板や地域の行事の敬老会・運動会・盆踊り等に参加して双方向的に情報を発信している。地区運動会終了後は、地元住民と食事会があり楽しんでいる。ホームの多目的ホールは地域にも開放し災害時の避難所になっている。認知症キャラバンメイトとしての活動を行い、認知症の講座を地域に開いて情報を発信している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームにはキャラバンメイトが2人いて、認知症サポーター養成講座を開催したり、運営推進会でホーム内で、新人研修の資料を用いて認知症の人への理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の介護度や身体状況、気になる方など、毎回報告している。それ以外にもヒヤリハット報告や、スタッフの勤務態勢なども報告し、助言を頂き、業務に活かしている。</p>	<p>会議は定期的に行われ、入居者の状況やヒヤリハット・災害時の体制・外部評価の報告等、双方向的に意見交換を行い、意義ある会になっている。認知症の勉強会の実施や災害時の地域連絡網の整備などの意見や提案をサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市町村職員に2ヶ月に1回の運営推進委員会でホームの状況を話したり、メールで連絡があったり、地域包括支援センター主催で介護支援専門員研修会を開催して頂き、意見交換をしている。</p>	<p>書類提出時に窓口で担当者に相談したり、電話や運営推進会議参加時に、アドバイスを受けている。役所主催の研修会には積極的に参加して意見交換し、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止に向けて勉強会を開催したり、マニュアルを作成したりして拘束を行わないケアを実践しているが、時に生命の危険性が考えられる場合には、玄関の施錠も考慮する場合もある。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践について、マニュアルをもとに全職員の勉強会を行い、言葉の拘束や接遇に関して学んでいる。日中の玄関は施錠せずに、外出希望の利用者は見守りしたり同行して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開始したり、日々のミーティングの中でも、言葉による虐待もないように、声かけや声のトーン、表情、態度にも気をつけて援助を実施するよう取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	協力病院主催による勉強会で、社会福祉士から、成年後見制度についての勉強会に参加したりして知識を深め、必要があれば活用、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前の情報収集等で、家族の心配していることを確認しケアを実施している。また入所前、入所中、入所後等に係わらず心配ごとなどの相談があれば、対応するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の援助の中や、家族の面会や家族会、敬老会時、意見や要望を聞き、できるだけ利用者、家族の希望や要望を運営に反映できるようにしている。	家族の面会時や家族会・敬老会・医療機関受診の報告の時に思いや意見を把握している。月1回、近況報告をホーム便りに添えて送付し連携をとっている。出された意見の中で、職員のネームプレートを付けてほしいとの要望を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は日々の業務やホーム内の勉強会で、職員の要望(勤務態勢、物品等)や意見を聞き、業務がスムーズに実施できるように努めている。</p>	<p>管理者は日常のケアやミーティング・勉強会等で意見や提案を聞いている。職員のアンケートも行っている。日頃からコミュニケーションを図り、提案は運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、職員の勤務態勢や自動販売機の設置希望など、聞きながら整備し、仕事がスムーズに実施できるように取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員が初任者研修を習得したり、認知症サポーター養成講座や、認知症サポーターステップアップ養成講座等の研修に参加している。ケアマネの資格習得に向けて、勉強しているスタッフもいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会の研修に参加したり、ホーム内で課題を出して勉強会をそれぞれが主催したりして、自己啓発に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、利用者や家族から心配なことや不安に思っていることを把握し、利用者同士や、スタッフと馴染みの関係作りができるように、声かけなど対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や利用者が現在抱えている不安や悩み、施設に対する要望などを聞き、利用者本人や家族の思いを大切にされた関係作りができるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時、利用者、家族に、施設で実施してもらいたいサービスやケア内容を聞き、利用者、家族の希望するケアを、支援できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの身体機能に応じて、スタッフと一緒にできる作業（洗濯物干し、たたみ、掃除等）は一緒に行い、その中で馴染みの関係作りができ、生活に張りや、楽しみが持てるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会時は、お茶やお菓子を提供し、利用者とゆっくり会話や、コミュニケーションがとれるように配慮しながら、施設に対する要望などを聞き、良好な関係作りができるように務めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族との外出や外泊など希望があれば、できるだけ対応できるようにしている。家族との絆や関係が途切れないように、ケアプランの中にも、面会や外出、外泊などの支援もお願いしている。</p>	<p>馴染みの同級生や昔の職場の同僚・近所の友人・兄弟等の面会があり、お茶を出してゆっくり話をしている。家族と同行してパチンコや買い物・墓参り・長島へドライブへ出かけたりして、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う、利用者同士、テーブルについてもらい、楽しく会話をしたり、利用者同士が気をかけ、少し具合が悪い方がいたら心配したりと、互いに支え合い温かく声かけする場面が多くみられる。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>病院入院時や他施設入所時は、職員が必ず訪問するようにしている。また、退所後に家族から相談がある場合もあり、介護度の変更申請や他施設入所に関する書類作成など対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを聞き、読書が好きな方には、新聞や雑誌を取って読んで頂いたり、お茶や飲み物の好みや食事形態、好み等を把握して提供している。	日常生活の中で思いや意向を汲み取り把握に努めている。新聞や雑誌を読んだり、タバコや飲み物なども個別対応している。困難な場合は、家族や職員の連携で本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の会話の中で、これまでの生活暦を把握し、日常の会話の中に取り入れ、利用者スタッフとの馴染みの関係作りができるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力に応じて、テーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物タタミ、お盆洗い等を手伝って頂き、日常生活動作の現状維持の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアを実施して行く中で、日頃の問題点などスタッフから、都度抽出してもらったり、家族の訪問時に意見を伺ったりして、介護計画を作成するようにしている。	本人や家族から情報を得て、医師の意見を反映して、介護計画を作成している。個別に情報収集して、自宅での生活リズムに合わせるようにしている。モニタリングは毎月実施、状況に変化があった時は、その都度計画を見直して、現状にあった介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録や連絡ノートに利用者の日々の状態を記入し、日々の申し送りや勉強会などで話し合い、スタッフ全員が同じ情報を共有し、ケアができるように取り組んでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の急変時等の病院受診の対応や買い物等、都度家族に連絡を取り、ホームでの対応がいつでもできるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の運動会や盆踊りに利用者の方と参加させて頂いたり、敬老会には地区の民生委員や近所の人達が踊りなど慰問に来て頂き、利用者は楽しく過ごさせて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院はあるが、本人、家族の希望するかかりつけ医の受診や眼科や歯科等の専門医なども希望される病院を受診するようにしている。家族が受診に付き添えない場合は、スタッフが同行している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。眼科や歯科は希望の医療機関に家族が同行したり、家族が行けない時は職員が対応している。協力医療機関からは1ヶ月に1回往診がある。主治医には、利用者の情報を知らせ適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護スタッフは、朝の挨拶時や検温時利用者と向き合い、観察し、日常の過ごす状態と少しの変化があれば、すぐに看護師に報告相談し、適切なケアができるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院入院時は、各病院や家族と連絡を取り合い、情報交換しながら対応している。退院後の対応もホームに帰る場合や、他施設に入所になる場合など、家族や連携室スタッフと連絡を取りながら対応している。協力病院の研修会にも参加し、連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りケアについては、本人や家族と話し合いを持ち、日々の状態の変化に合わせて、主治医や協力病院とも連携を取りながら、利用者・家族にとって良好な終末期を迎えられるように支援している。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、状況の変化に応じて、何度も家族や医師と連携をとり、マニュアルをもとに方針を共有しながら対応している。「看取りに関する指針」もある。利用者や家族にとって良好な終末期の選択を支援している。看取りの事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応ができるように、消防署職員による、救急時の対処方法やホーム内の勉強会でも窒息などの急変の対処法などを開催し、対応ができるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震時の対応の勉強会を行ったり、夜間想定火災訓練を消防署職員の指導の下、毎年実施している。災害時、避難場所として地域の方にも利用して頂けるように、飲料水や保存豆腐等を確保している</p>	<p>火災訓練は年2回実施し、1回は消防署立ち合いのもと夜間想定で行っている。緊急通報装置や消火器の使い方・点検・誘導確認等を実施。町内会の協力があり地域連絡網の体制が整っている。連絡網の中に警備会社も入っている。地震時の訓練も実施している。災害時の水や保存豆腐・冷凍食品・乾物等の備蓄やガスコンロ・防災ずきんも用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送りの場や、なにげないスタッフの会話の中でも気になる部分があれば、お互いに注意しながら、利用者にとって良い環境人になれるように取り組んでいる。	トイレ誘導や入浴等、羞恥心のないよう配慮している。マニュアルを作成し勉強会や話し合いを行っている。一人ひとりの人格を大切に個性を引き出し、特徴を活かし誇りやプライバシーを損ねないように心がけ、過ごしやすい環境を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりへの言葉かけや、会話の中から、利用者の希望や家族からの要望を把握し、利用者の自己決定を尊重して、対応ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	読書が好きな方、自室でテレビ鑑賞をしたい方、レクリエーションに参加したい方など、その方にあった生活スタイルを尊重して対応し、決して無理強いしない対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の好きな服や、化粧品の使用、ヘアカラーなど利用者の希望や生活習慣を把握して、その人らしいおしゃれができるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて地元で採れた新鮮な食材(竹の子、ワカメ、魚、野菜、果物等)を使用して食事を提供したり、つわむきや竹の子むき、きびなごの下ごしらえなど職員と一緒に実施している。	個々の嗜好を把握し献立を作成している。季節の多くの食材を地元の店から買い使用している。個々の力量に応じて食事準備や台拭き・片付け等も職員と一緒にしている。運動会や花見・敬老会の行事食等、食欲の湧く食事作りの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量が把握できるように、毎日記録に残している。カリウムや塩分制限などある方がいるので、通院時のデータや主治医との連携を取りながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後1日4回はうがいや歯磨きをして、口腔内の清潔を保つようにしている。10月より訪問診療による歯科検診を実施してくれる歯科があり、家族の了解で定期的な歯科検診を検討している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し時間表を作り、日中はできるだけトイレで排泄ができるように取り組んでいる。食前・食後は排泄を促し必ずトイレへの誘導を実施し、気持ちよく食事を摂取できるように援助している。	個々の排泄パターンを把握して、羞恥心や言葉かけに配慮し、昼間はトイレ誘導している。失敗をしてもさりげなく声かけして、周りに気づかれないように支援している。排泄の自立ができた事例がある。食事にも気をつけてヨーグルト・牛乳や芋・野菜などの食品を摂取している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な芋類や野菜、牛乳や乳製品(ヨーグルト、R1)などを摂取し、排泄を促している。毎日、レクリエーションや歩行訓練を実施し腸内の動きが良くし、排便を促すように心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の入浴日や時間を決めてはいるが、利用者の希望で、いつでも入浴ができるようにしている。	入浴は週3回を基本にしているが、いつでも入れるようにしている。羞恥心や恐怖心に気配りしている。入浴剤を使用して、ゆっくり楽しんでもらうように個々に、応じた支援をしている。入浴を拒む利用者には曜日を変えたり、職員の連携で対応している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツの洗濯を行ったり、汚染があればその都度、洗濯をしたり、天気の良い日には布団を干したりして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、主治医や看護師のもと、誤薬がないように、スタッフ同士確認しながら介助を実施している。また服薬の作用、副作用についても勉強会をホーム内で開催し薬について理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望があればドライブや散歩をしたり、読書をしたりとその方々にあった過ごし方ができるようにしている。洗濯物干し、たたみ、食事の下ごしらえなど、できる部分は手伝って頂き生活に張りがあるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族と一緒にパチンコに行かれたり、食事をしたり、旅行に出かけたりと楽しみや家族との絆を断ち切らないような支援を心がけている。施設内でも、ソーマン流しや地域の盆踊りや運動会にも参加させて頂いている。	日常的には、広い庭の散策や花壇を見たり、思い思いの散歩をしている。地域の行事、盆踊り、運動会、ひなじょ祭り等に出かけている。買い物や自宅に立ち寄ったり遠方にドライブに行ったりしている。希望にそって家族とパチンコや外食に行ったり、旅行したり家族との絆を大切にしながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している方はいないが、利用者の希望の買い物があれば、家族との相談のうえ下着や靴、お菓子やあめなどを購入し、立て替え払いにしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者個人で携帯電話を所持している方も2人おり、いつでも電話ができるように対応している。手紙の返信ができる方はいないが、家族から届いた手紙はすぐに利用者の手元に届けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、日勤スタッフで玄関、廊下、浴室、食堂、台所、居室、寝具、トイレ等、掃除を行い清潔を保ち気持ちよく過ごせるようにしている。天気が良く、気持ちの良い日には、利用者と一緒に庭掃除を行っている。	フロアは広く多目的ホールにも使用できる。温度・湿度の管理がされており、明るい。ウッドデッキがあり解放感がある。廊下や各所に水彩画や季節の飾り付け・外出しての楽しい写真も飾られている。無理のないようにできる範囲で、職員と一緒に掃除を行い、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で家族とお茶を飲みながら会話を楽しんだり、自室でテレビを見たり、雑誌を見たり、昼寝をしたりして利用者の好きなように過ごす事ができるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、本人が使い慣れたベッドや寝具を持って来て頂いている。冷蔵庫やテレビを持って来ている利用者もいる。部屋に家族写真を飾っている利用者もある。	居室は明るくベッドや寝具・テレビ等が持ち込まれ、窓から景色が見える。家族写真や暦・小物等が持ち込まれ、安心できる部屋になっている。携帯電話を使用する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面バリアフリーで、利用者個々人の能力におうじて、デッキで洗濯物干しをしたり、台所で魚のこしらえをしたり、下膳を手伝ってもらったりとできる利用者はできるだけ作業に参加して頂いている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
		火災訓練 は年2回実	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない